

課題対応取組み報告書

名称	董・鯉江東地域包括支援センター
提出日	令和 6 年 6 月 12 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等 <input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()	<input type="checkbox"/> 社会資源の創設 (居場所づくり等) <input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	早期に相談につながる体制強化と関係機関の連携による包括ケアの実践	
地域ケア会議から 見えてきた課題	1. 支援を必要とする高齢者や世帯が潜在化している。 2. 高齢者だけでなく同居家族にも何らかの支援が必要な世帯が増えている。 3. 生活困窮や金銭管理、近隣トラブルなど、複数の課題を抱えた高齢者が増えている。 4. 男性高齢者の孤立や社会参加の減少による意欲低下などで、フレイル状態となっている高齢者が増えている。	
対象	地域住民、地域関係者、医療・介護・福祉の専門職	
地域特性	【関目地域】 地域福祉支援員を中心に男カフェポッチャ・ラジオ体操などが積極的に開催されている。ひとり暮らしの男性高齢者からの相談が多い。潜在化している高齢者の掘り起こしが課題となっている。 【関目東地域】 高齢化が進んでいる市営住宅からの相談が多くある。適切な医療機関につながっていないケースや高齢者虐待の相談が多い傾向。地域では新たな集いの場として5月から「ふれあい広場」が開催されている。 【董地域】 教育・保育・福祉・医療にかかる施設があり、各施設が地域活動協議会に参画しているため地域との連携が強化されている。住まいを失うなど経済困窮の相談が増加傾向にある。 【鯉江東地域】 ラジオ体操や制作活動など様々なイベントが実施されている一方で、エレベーターのない市営住宅に住む高齢者が外出困難となる相談が増えている。	
活動目標	1. 早期発見・早期介入に繋がる体制構築の継続 2. 複合的な課題を抱えた高齢者や世帯を丸ごと支援できる体制構築の継続 3. 支援者のスキルアップと多職種連携の強化 4. 地域住民の介護予防	
活動内容 (具体的取組み)	【目標1の活動計画内容】センターの周知活動 ・毎週金曜日にイズミヤにて出張相談会をおこない、8月4日には「健康からだ測定会」を実施。地域に出向いての出前講座も実施した。新たに70歳になられた方へ介護保険者証ケースを配布した他、「地域包括支援センターだより」を毎月発行し町会にて班回覧していただいた。 【目標2,3の活動計画内容】多職種連携の強化と認知症の理解啓発 ・地域ケア会議の開催で多くの機関を巻き込んだチームアプローチを実践し、支援者間の連携を強化させた。小学生・地域住民を対象に認知症講座を行ったほか、「認知症フェスタ」を開催し区民へ向けにも理解啓発も行った。意思決定支援や高齢者虐待対応、精神疾患についての研修会を開催し支援者のスキルアップを図った。 【目標4の活動計画内容】各連合や関係機関と連携し、社会参加や交流の場の提供 ・(圏域全体) いきいきウォーキング・文化祭の開催 「ちくちくロバの会」立ち上げ ・(関目) 男カフェ・健康講座 ・(関目東) 健康麻雀 ポッチャ大会 ・(鯉江東) なまひがピック・ラジオ体操 ・(董) ウォークラリー・憩の広場	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	イズミヤの相談会は他機関と連携しイベントも複数回開催したことで多くの方々に地域包括支援センターのことを知って頂く機会となった。 また、地域包括支援センターだよりの発行は、毎月欠かさず班回覧していただくことで周知拡大に繋がっている。 支援困難事例では地域ケア会議を開催するタイミングを逃さぬよう意識し、多職種が連携し、世帯丸ごとの支援や医療機関への受診・入院調整など迅速且つ適切に実施することができた。 意思決定支援や虐待対応、精神科への入院の流れなど、支援者が日々苦慮している課題をテーマにした研修会も開催し実践力の向上に努めた。 地域住民の介護予防については、各連合の地域活動協議会や他機関と協力し、各地域において男性高齢者の参加も意識しながら様々な参加・活動・活躍の場を設けた。 2月には自主活動グループ「ちくちくロバの会」を立ち上げ、趣味活動を通した新たな社会交流の場を作った。	
今後の課題	令和5年度は、精神科への受診や入院調整が必要な事例が多くみられた。 また、同居の子にも鬱や精神疾患が疑われる事例も多く、高齢者・子・孫の三世代が同居する世帯では、孫がヤングケアラーに該当する事例もあった。 高齢者個人やその世帯が抱える課題は複雑・多岐にわたっており、今後も他機関・多職種の更なる連携の強化と、支援者のスキルアップが重要となっている。 このような世帯が潜在している状況や、介入時には課題が重度化していることも多くあるため、アウトリーチ活動や地域包括支援センター(以下「包括」という)の周知活動を継続的に行い、早期に相談に繋がる体制を確立させていく必要がある。同時に、地域住民の「介護予防」や「備え」による意識についても底上げを図っていきたい。	

※以下は、区運営協議会事務局にて記入

区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和6年7月4日(木)
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input type="checkbox"/> 継続性 <input checked="" type="checkbox"/> 浸透性・拡張性 <input checked="" type="checkbox"/> 専門性 <input checked="" type="checkbox"/> 独自性
評価できる項目(特性) についてのコメント *今後の取組み継続に向けて、区地域 包括支援センター運営協議会からの意 見等を記載。	イズミヤでの相談会は他機関と連携し、イベントを複数回開催したことで包括のを知る機会となり、「地域包括支援センターだより」を班回覧することで周知拡大に繋がられている。 支援困難事例では多職種が連携し、世帯丸ごとの支援や医療機関への受診・入院調整など迅速目つ適切に実施し、意思決定支援や虐待対応、精神科への入院の流れなど、支援者が日々苦慮している課題をテーマにした研修会も開催し実践力の向上に努めている。 男性高齢者の参加も意識しながら様々な活躍の場を設け、自主活動グループ「ちくちくロバの会」を立ち上げ等、趣味活動を通した新たな社会交流の場を作った。